

## 平成29年度防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

教育委員会名：普代村教育委員会

**I 事業の概要（地域の実情含む）**

- ・沿岸地域における津波災害の危険性や防災・減災の工夫を学習し、状況・天候によって違う安全な避難方法や、避難後の安全を確保するための自分たちの行動について理解する。（防災教育）
- ・普代村の復興や産業に関する学習を通して、自分の生き方について考える。（復興教育）
- ・普代村の郷土芸能、伝統行事など、地域づくりに関わる活動や文化伝承活動を通して、普代村の復興・発展について考える。（復興教育）

**II 取組の概要**

- 1 普代村立普代小学校
  - ・普代村内施設の見学
  - ・チョウセンアカシジミ観察会
  - ・大阪追手門学院との交流活動
  - ・ワカメ芯抜き体験・海上遊覧
  - ・チョウセンアカシジミ産卵数調査
  - ・防潮堤・水門見学
  - ・鮭の孵化場見学
  - ・新巻鮭作り体験
  - ・「神楽宿」の宿主体験
  - ・「普代はまゆりマラソン大会」への参加
  - ・「ふだいまつり」への参加
  - ・「普代村防災訓練」への参加
  - ・小中合同避難訓練
  - ・小中合同挨拶運動
  - ・小中合同文化祭
  - ・「いわての復興教育」副読本を活用した授業づくり
- 2 普代村立普代中学校
  - ・職場訪問体験
  - ・ジオパークの見学及び体験学習
  - ・久慈市内販売体験
  - ・盛岡市内販売体験
  - ・校内避難訓練
  - ・「普代はまゆりマラソン大会」への参加
  - ・大阪追手門学院との交流
  - ・「普代村防災訓練」への参加
  - ・小中合同避難訓練
  - ・小中合同挨拶運動

- ・小中合同文化祭

**III 取組の成果と課題**

## 1 取組の成果

## (1) 普代村立普代小学校

- ・普代村の防潮堤や水門などの防災施設の見学や、震災時に救助活動に当たった消防士の方の話を聞く機会を設けたことで、命を守るための施設が身近にあることや自分の命を守るために必要なことを学ぶことができた。震災の記憶があまりない子供たちが当時の様子を知ること、防災・減災の意識を高める貴重な機会となった。
- ・小中合同の避難訓練の実施や村の総合防災訓練の参加に当たって職員や児童の動きを検討したことにより、有事の際の対応がより明確になった。
- ・地域の産業や伝統文化を学ぶ活動を通して、地域の人たちが大切にしている自然、産業、伝統文化への関心や、自分たちもそれらを受け継いでいこうとする意欲を高めることができた。

## (2) 普代村立普代中学校

- ・本年度の取組で特に効果的だったことは、久慈市内での販売体験を1年生に位置付けたことである。生徒たちにとっては初めての体験であったが、積極的に活動することができた。当日は観光客等が多く、予定していた全ての物品を売り尽くすことができ、生徒たちは大きな喜びを味わうことができた。人と関わることへの自信を深め、地域社会に貢献していきたいという意欲を高めることができた。
- ・「ふだいまつり」等での七頭舞公演を通して、地域の人々との関わりを深めるとともに、伝統文化に対する愛着や継承していこうとする思いを深めることができた。
- ・各種避難訓練を通して、災害発生に伴う危険を予測・認識し、安全を確保するための行動について考えたことで、防災意識を高めることができた。
- ・小中合同活動を通して、多様な人間関係による活動を推進することができ、「かかわる」力の育成につながったと考えられる。

## 2 取組の課題

### (1) 普代村立普代小学校

- ・引き渡し訓練や下校時の避難訓練などの取組を計画・実施し、学校と家庭・地域との連携を更に図っていきたい。
- ・防災・減災の専門家や自然災害からの復興に取り組んでいる人たちの話を聞く機会を計画的に設け、防災・減災に進んで取り組もうとする意欲を更に高めたい。

### (2) 普代村立普代中学校

- ・2年生の盛岡市における販売体験では、販売に係る物品の種類や販売額、販売数量等について、具体的な計画が必要であった。今年度、具体的な販売実績を資料として残せたので、次年度に活用したい。
- ・生徒数の減少に伴い、活動内容の精選や縮小が必要である。